

「生産性向上支援訓練」利用者の声

東芝プレシジョン株式会社 様（福島市）

プロフィール

- ◆所在地：福島市
- ◆従業員数：193名
- ◆事業概要：電気機械器具製造

利用コース情報

- ◆訓練コース名：①『データ活用で進める業務連携』②『RPAを活用した業務効率化・コスト削減』
- ◆訓練時期：①令和6年9月（1日：6時間）②令和7年9月（1日：6時間）
- ◆受講者数：①15名②14名



事業主の声

当社では、訓練受講以前から社内でDX推進に取り組んでいました。しかし、社内全体への浸透には課題があり、業務改善につながる具体的な成果には、まだ十分に至っていない状況でした。そうした中、ポリテクセンター福島よりご案内いただいた生産性向上支援訓練の活用を、令和4年度から始めました。

訓練を通じて、社内教育だけでは得られない多くの学びを得ることができました。他社のDX事例を知ることで、自社の取り組みを客観的に見直す視点が得られました。また、Power BIなどツールを活用する中で、社内課題の可視化と具体的な解決に取り組むことができたほか、RPAの活用により、業務改善につながる実践的な成果も得られました。

こうした新たな知識や技術の習得は、今後の業務に大きく役立つと感じております。訓練の受講後には社員の意識にも変化が見られ、自発的な行動が増えました。

全員参加で取り組んでいる当社独自の5S活動においても、今回学んだデジタルツールの活用が進んでいます。職場の5S活動だけではなく、各自が日常的に推進している業務の5Sも含めて、社内全体へ意識が浸透しています。

今後はDXに限らず、様々な課題解決に向けて、生産性向上支援訓練を継続的に活用していきたいと考えています。



技術管理担当グループ長
渡邊 様

受講者の声



技術管理担当
梅津 様

私は現在、技術管理・知財関連・輸出関連の業務と併せて社内のデジタル化推進支援を担当しています。

当社の業務は人手による作業が多く、集計されたデータが十分に活用されていない状況が続いていました。また、データの共有も不十分であり、業務効率に課題を感じていました。

「データ活用で進める業務連携」をオーダーコースで受講したことをきっかけに、社内でBIツール活用のための全社横断的なワーキングチームを立ち上げ、令和6年10月から令和7年9月にかけて、全社的な定着化と自走化の推進に取り組みました。すべての部署での定着には至っていないものの、活用が進んだ部署ではデータの「見える化」が進み、一定の成果を上げることができています。

また、BIツールを活用する中で、データの整理や前処理の重要性を実感し、その手段としてRPAが有効であると感じました。特に、データの並べ替えや結合など、データベース形式への変換においてRPAは非常に効果的であると考えています。こうした背景から、令和7年9月に「RPAを活用した業務効率化・コスト削減」をオーダーコースで受講しました。この訓練を通じて、RPAが人手による作業やミスを減らすための有用なツールであると改めて実感するとともに、業務効率化に向けた効果予測や費用対効果の算出など、他の業務改善活動にも応用できる知識を習得することができました。単なるツールの使い方にとどまらず、改善活動全体を俯瞰する視点を得られたことは、今後の業務推進において大きな収穫です。

今後も、訓練で得たBIツールやRPAツールの知識を社内全体で活用し、DX推進と業務改善を継続して進めていきたいと考えています。